事例No.	2943
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	京都府

事例区分	DX

タグ	・ICT ・観光 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	ICT

事例内容・タイトル

「京都府のメタバース関連事業について」

出典

安心・安全なメタバースの実現に関する研究会（第3回）

資料３－３

第３回　安心・安全なメタバースの実現に関する研究会

「京都府のメタバース関連事業について」

・メタバース トラスト ステートメント京都宣言
・共創プロジェクト事例の紹介

京都府商工労働観光部
ものづくり振興課
令和6年1月26日

京都府ものづくり振興課の概要

中小企業・産業振興（伝統産業以外）

①中小企業育成支援（生産性・付加価値向上）

②地域産業育成支援（北部、コンテンツ）

③イノベーション支援（社会課題解決）

④スタートアップ支援（起業家集積）

▼太秦メディアパーク

History

2006年「太秦映像プロジェクト」発足

2008年「太秦メディアパーク構想」策定

2009年　松竹撮影所リニューアル・立命館大学映像学部スタジオ設置

2010年　クリエーター支援拠点「UZU」（現・京都クロスメディア推進戦略拠点）

2017年「京都クロスメディアパーク推進会議」設置

2020年　VRIAを東映京都撮影所内誘致

2022年　太秦メディアパーク共創拡大（2nd ステージ）

2023年「メタバース・トラスト・ステートメント」京都宣言



太秦メディアパーク

・京都府では、国内外で評価の高い映画・ゲーム・アニメの制作会社が集積する京都・太秦立地を活かし、専門分野を超えた人材育成、交流ワークショップの開催等を通じて、クロスメディアを推進

・コンテンツ関係企業、DX・ICT関連企業の集積を図り、教育・ものづくり・医療・観光等との異分野融合によって、新産業を創出するオープンイノベーション拠点を形成

太秦メディアパーク

◆映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツ関係企業、DX・ICT関連企業が集積し、教育、ものづくり、 医療、観光等との異分野融合によって、世界をリードするオープンイノベーション拠点



研究会

〇メタバース研究会：
「メタバース・トラスト・ステイトメント京都宣言」





共創プロジェクト

〇教育：ARによる作業指示支援システム
〇ものづくり：試作デザインVR確認システム
〇医療：ARによる手術支援システム　等





教育、ものづくり、医療、観光など大きく拡大する市場における新産業創出

先端技術の安全性・信頼性

メタバース・トラスト・ステートメント京都宣言

　メタバースは、空間を超えた交流や現実世界にはない新しい体験、ビジネスチャンスの拡大等に繋がるテクノロジーですが、アバターへのハラスメントやデジタルアセットの盗難、空間のなりすましなどのリスクも潜んでいます。
　そこで、業界団体・企業等で構成する「京都府メタバース検討会」を立ち上げて議論を重ね、一般社団法人CiP協議会（※）と府が中心となって、「メタバースの制作や活用に関わる方々が、セキュアで信頼できるメタバース空間づくりを自主宣言する指針」としてステートメントを策定しました。

※「コンテンツ×デジタル」産業の拠点形成を目的に、通信、放送、IT、コンテンツ、エンタメ、不動産等の関連企業が参画し、設立。
　本協議会の中村伊知哉氏は、内閣府知的財産戦略本部「メタバース上のコンテンツ等をめぐる新たな法的課題への対応に関する官民連携会議」の座長を務める。

京都府メタバース検討会

■メンバー：メタバース業界団体、教育・観光・ものづくりなどでの活用を目指す企業など

ANA NEO、エスユーエス、NTT QONOQ、NTTコミュニケーションズ、京都産業21、京都市、京都府、京都フラワーツーリズム合同会社、京都府立大学大学院、京都文化NFT、CiP協議会、松竹撮影所、iU 情報経営イノベーション専門職大学、Skeleton Crew Studio、スターマーク、ZOAN JAPAN、テルモピレー、テレコムスタッフ、東映、トーセ、ドコモ gacco、西村兄妹キモノ店、日本デジタル空間経済連盟、PwCコンサルティング合同会社、メタバーズ、メタバース推進協議会、ワントゥーテン（五十音順）

■開催結果

第１回
（令和４年７月22日）
【メタバースにおける課題の共有】

・信用力のあるメタバース空間づくり
・トラスト（信用）を担保する仕組みを作ることが大事

▶

第２回
（令和４年12月２日）
【素案提示後、意見交換】

・目的の整理（なぜメタバースか、メタバースで何をしたいのか）
・規制ではなく、理念を示すこと

▶

第３回
（令和５年３月15日）
【宣言の最終確認】

安全性・信頼性の高い
メタバース空間づくりを
促進するための宣言

▼宣言内容

Metaverse Trust Statement Kyoto

メタバース・トラスト・ステートメント京都宣言

京都府と一般社団法人CiP協議会では、メタバースの制作や活用に関わる方々が、セキュアで信頼できるメタバース空間づくりを自主宣言する指針として、「メタバース・トラスト・ステートメント京都宣言」を策定しました。

01 自由でオープン

世界中の誰もが自由にオープン参加可能なメタバース空間の提供と素晴らしいイノベーションの創出を目指します。

02 伝統、地域

日本の長い歴史や伝統に根差した文化の重層性や多様性を発揮するとともに、地域固有の価値を互いに認め合う「場」として進化します。

03 海外

国内外の人々と、距離、時間、費用、言語の制約なく価値を共有できるコンテンツづくりを進めます。

04 若者、こども

暴力的・性的表現や誹謗中傷、社会の分断化等の負の影響に対する十分な配慮により、安全・安心なメタバース空間を実現します。

05 高齢者、障がい者

一人ひとりのライフスタイルやニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる人に優しいメタバース空間の実現を目指します。

06 技術、研究

データをオープンな形でシェアすることで、時間と空間を越えたオープンイノベーションによるテクノロジーの追求と開発を進めます。

07 トライ&エラー

「リアル」と「バーチャル」の両面から、メタバース空間における最適な技術の普及促進に向けた実証を推進します。

08 セキュア&トラスト

メタバース空間の価値を最大化するために必要な、プライバシーやサイバーセキュリティ等への適切な対処により信頼の維持・構築に努めます。

09 モラル

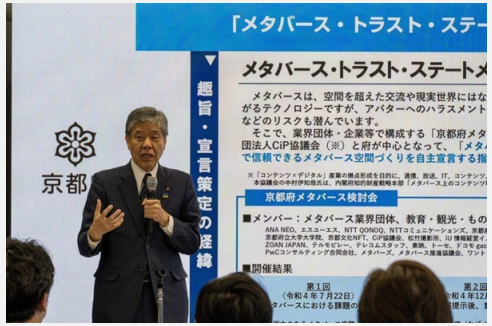
データの真正性や正確性に責任を持ち、継続的な相互調整を担い、公正なメタバース社会の実現を目指します。

10 未来

全ての人とモノが国境を越えて、知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことが可能なメタバース空間の未来を創出します。

▼活用促進





2023年3月15日
「メタバース・トラスト・ステートメント京都宣言」発表

国境がないメタバースを運用する理念を示す10の指標としてCiP協議会とともに発表。６９社へ展開中。

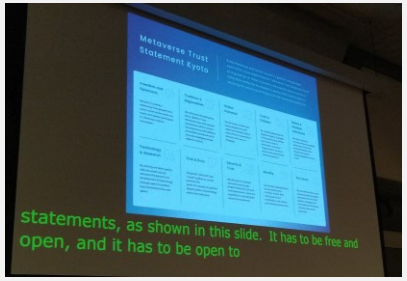


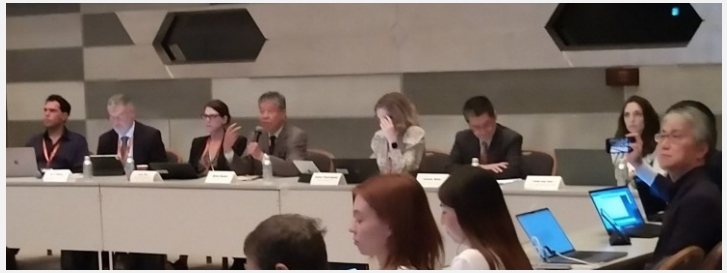
2023年4月29日
G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合　登壇

「メタバース・トラスト・ステートメント京都宣言」をはじめとする京都府のメタバース取組紹介。



１０月８日（日）OECD事務局やG7各国政府関係者などと山下副知事がトークセッション





METAVERSE
Trust Statement Kyoto

メタバース空間で、多様な価値を共有し、新たな可能性を拡げる

現在１３５団体・企業様が賛同

クロスメディアと異分野の融合を目指した取組

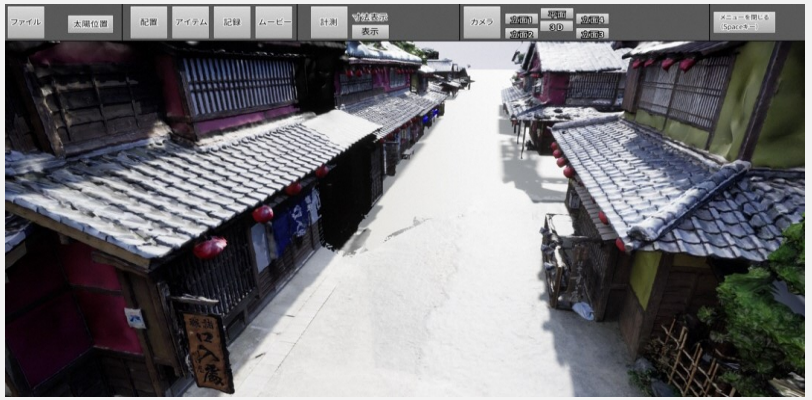
▼バーチャルプロダクション

映画制作への展開

映画等の撮影で使用する建物等を３Ｄスキャンし、デジタルアセットを制作。CG撮影の背景等に活用。

■メンバー　東映、松竹、シュルード設計、キルアフィルム、
　　京都府（補助金活用等）
■連携　NHK
■取組　デジタルアセット制作
　　デジタルアセットを配置するアプリケーション開発
■成果　東映作品でデジタルアセット活用
　　NHK大河ドラマでのバーチャルプロダクション活用の契機に



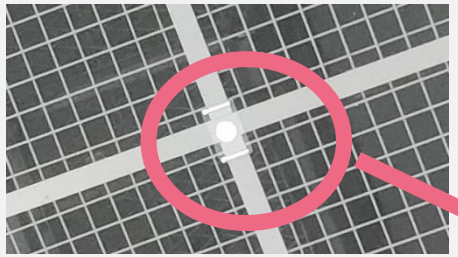


カメラ連動による、メタバース空間への没入

■メンバー　NHK、キルアフィルム、京都府
（けいはんなロボット技術センター実証等）

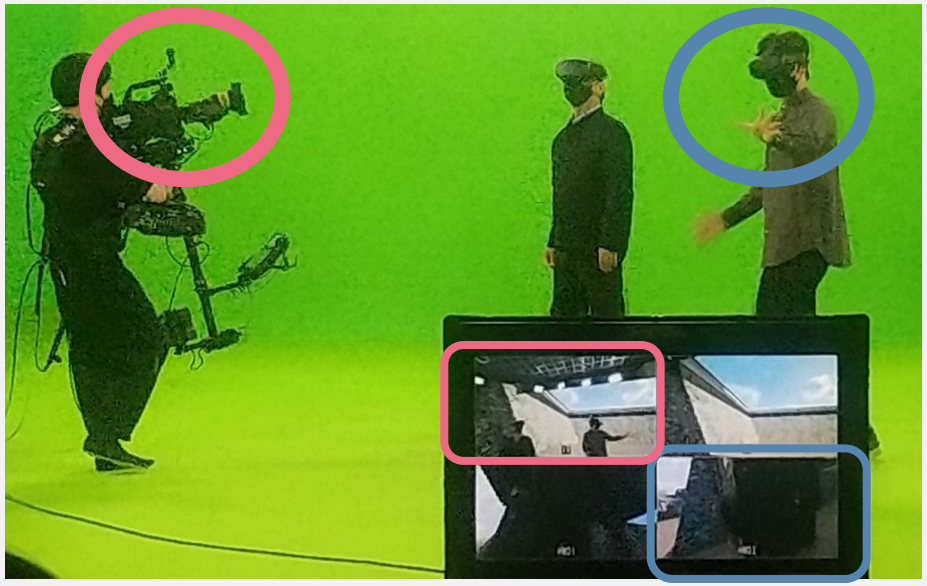
■取組　４面グリーンバックのスタジオにて撮影。
VRゴーグルを装着した演者が、
カメラの画面では、リアルタイムでメタバース空間に入る。

■成果　NHK「歴史探偵」にて活用





天井に備えられた300個のマーカーを通じて、センサー付きカメラの位置を把握可能



クロスメディアと異業種のオープンイノベーションによる新産業創出を目指す「太秦メディアパーク」

幅広い分野の企業やクリエイターが集う、クロスメディア産業の集積地として世界をリードする新産業の創出拠点を形成



京都府商工労働観光部
ものづくり振興課